

新しい 人材活用 プロシエリング

外部プロ人材 活用成功事例



(株)サーキュレーション
代表取締役 久保田雅俊

No.26 SDGs / サステナビリティを理解し新サービスをリリース

プロシエリングとは、高い職能を持って複数企業で同時に活躍するプロフェッショナルを、経営課題に合わせて「雇用」ではなく「活用」という、新しい人材活用の手法です。2014年の設立以来、サーキュレーションには18,000名以上のプロが登録し、10,000件以上のプロジェクトで実績を上げてきました。プロジェクトは経営要素の強い案件が多く、新規事業の企画推進や、人事・広報等のミドルオフィス支援、さらにはIPO関連から中期経営計画の策定、CFOのシェアなども実行しています。

SDGs / サステナビリティの意識を高め、今後活かす

今回は、そのなかからUnipos株式会社（以下、同社）の経営層がサステナビリティの理解を深め、サービスブランディングとSDGs関連の新サービスの開発に成功した際のプロシエリング活用事例をご紹介します。

同社は2012年11月に設立され、HR領域のソフトウェア「ピアボーン®Unipos」の開発・提供を主な事業としています。従業員数は165名（2021年9月30日時点）

です。

課題 関心は高いが知見が不足 取り組みが前に進まない

世界規模で持続可能な成長・サステナビリティへの関心が高まり企業活動にも影響が及びはじめています。同社でもドイツに構えていた支社から情報が寄せられ、SDGs / サステナビリティに関する理解の必要性を感じていました。そこでSDGs / サステナビリティの動向を正しく理解し、自社の事業との関連性を整理することで今後の取り組みに活かしたいと経営陣は考えました。しかし、社内にSDGsの知見はなく、課題案件を前に進められていませんでした。そのようなタイミングで、必要な時に専門性の高い人材を雇用せず活用できる「プロシエリング」に出会いました。

解決策 SDGsと事業の関係を 議論を通して深く理解

サーキュレーションからは「経営層の理解促進とサステナビリティ経営を軸とした新規事業開発支援」という解決策と当社社員でもあるプロ人材・信澤みなみとのプロジェクトをご提案しました。

信澤は、サステナビリティ推進支援におけるプロ人材としても活

躍しています。2014年サーキュレーションの創業に参画。ベンチャー企業に特化した経営基盤構築、採用人事・広報体制の構築、新規事業創出を担うコンサルタントとして活躍後、人事および経済産業省委託事業の責任者として従事しました。その後「プロシエリングで社会課題を解決する」ために、企業・NPO / 公益法人との連携による社会課題解決事業を行うソーシャルデベロップメント推進プロジェクトを設置。SDGs推進支援、自治体・ソーシャルセクターとのコレクティブインパクトを目的としたプロジェクト企画など、数十社のサステナビリティ推進支援に関わってきました。

●代表・役員向けSDGs研修を実施

信澤はまず、代表を含めた経営陣に対して、サステナビリティ / SDGs / ESGをテーマに研修を実施し、世界と日本の動向、企業が取り組む意義とそのプロセスを解説しました。同時に取り組みのイメージを具体的に想像してもらう狙いから他社の先進事例を紹介しました。

●既存事業とSDGsを整理する

ワークセッションを企画
次に、信澤とプロジェクトメン

■久保田雅俊

1982年生まれ、静岡県出身。学生時代から複数の事業立案を行う。21歳の時に、進学塾を経営していた父親が意識不明となり、10年間にわたって介護。継続不可能となった父の会社を自身の手で清算することとなる。その経験から企業経営には「金」以上に「人の経験・知見」が必要であるという考えにたどり着く。2014年株式会社サーキュレーションを設立。プロフェッショナル人材の経験とスキルを複数社で活かすプラットフォーム（プロシェアリング）を運営している。

■株式会社サーキュレーション

本社：東京都渋谷区神宮前 3-21-5 サーキュレーションビル ForPro
TEL：03-6256-0467 URL：https://circu.co.jp/

- No.21 プロの支援で最新OMOマーケティング施策を立ち上げ
- No.22 オンライン体制を構築、昨年比新卒採用数300%を実現
- No.23 ダイレクトリクルーティングにより専門人材の獲得に成功
- No.24 ITインフラの見直しで数千万のコスト効果を実現
- No.25 事業責任者クラスがサステナビリティプランを策定
- No.26 SDGs /サステナビリティを理解し新サービスをリリース

バーは同社の既存事業とSDGsの関連性の整理に着手しました。既存事業におけるポジティブ／ネガティブインパクトの整理、SDGsを起点とした機会／リスクの整理、さらに、経営理念をもとに自社がインパクトを与えていく活動とSDGsとの因果関係を整理し、議論を深めていきました。

●自社の社会的存在意義を再認識

プロジェクトメンバー全員が事業とSDGsとの関連性につき議論を通して整理した後、改めて自社の経営理念やビジョンの再認識を行いました。将来どのような社会を目指し、その実現に向けてどのような価値の発揮ができるかを議論することで、単なるビジネスチャンスの獲得ではなく、血の通った新規事業とするためのマインドセットを創り上げていきました。

●サービスブランディング・

営業戦略展開をアドバイス

SDGs関連の新規事業の開発からリリースにあたって、信澤からはSDGsを理解したブランディングメッセージになっているかを問いかけ、サステナビリティ推進動向を踏まえた営業戦略へ展開を図るうえでのアドバイスをを行いました。

成果

SDGsを自社製品に融合し
新サービスをリリース

プロシェアリングの活用により、同社はSDGsを自社のサービ



左：(株)サーキュレーション
ソーシャルデベロップメント推進プロジェクト 代表 信澤みなみ
右：Fringe81(株) 執行役員 兼 Unipos(株) 執行役員 CPO 斉藤知明氏

スブランディングに融合し、以下のような成果を実感しています。

- ①代表はじめ役員全員がSDGsの目指す世界観を理解
- ②自社のビジョンとSDGsの融合ポイントを整理し、同社のSDGsの因果関係図が完成
- ③SDGsの因果関係図から自社サービスを成長させる可能性を見出し、新サービスをリリース

プロシェアリング×
サステナビリティ理解と新規事業開発支援での支援ポイント

今や大企業だけでなく中小企業でも意識する企業が多いサステナビリティへの取り組み。世界規模でのルールづくりの最中であるため、最先端の知識をインプットし続ける必要がある分野です。サステナビリティへの理解と新規事業開発を行うために、自社で推進で

きる人材を採用する方法が考えられます。一方で、プロ人材を活用し、実際にグローバルトレンドをインプットし続け、社内浸透の取り組みの経験豊富な人材に伴走してもらうことも非常に効果的です。また、社内メンバーの人脈以外でプロ人材を探す手段としては、業務委託を通じてアドバイザーになってもらう方法があります。雇用時に発生しがちなミスマッチリスクなども低減ができ、有効な手段となりえますので、ぜひこのような活用も検討ください。サステナビリティ経営の推進と社内浸透に特化した人材は、実際に採用するとなると、非常に希少価値が高く、給与も高い傾向にあります。そのような人材を採用したいという要望があった場合はプロシェアリングの活用を検討・提案してはいかがでしょうか。